

COG2025 応募内容確認書

ID	19-13-1
自治体名	新潟県三条市
自治体提示地域課題	商店街に若者のにぎわいを取りもどす
チーム名	ともしび 三条中央商店街活性化し隊
アイデア名	人を繋ぐ商店街に学びの灯を～勉強場所が足りない！？その悩み、三条中央商店街で解決します！～
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	3
代表者	中川 実咲
メンバー（公開）	中川 実咲, 中村 絹子, 与齊 美香瑠

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。



「ともしび」インスタ QR コード



@SANJO_TOMOSHIBI

【チ ャ ーム 名】 ともしび 三条中央商店街活性化し隊

【アイデア名】 人をつなぐ商店街に学びの灯を

～勉強する場所が足りない！？そんな中高生の悩み、商店街で解決します！～

【自治体名】 新潟県三条市

【自治体提示の地域課題】

商店街に若者のにぎわいを取り戻す

三条市の中心市街地エリアは、燕三条のものづくりのルーツ「鍛冶」がはじまった地域で、商店街や昔ながらの町屋づくりの建物が今なお多く残っており、生活道路としてできた 100 以上の小路や商店街など歴史・文化資源としても価値がある地域です。しかし近年、昔から住み続ける高齢者世帯を除く若い世代全般においては、郊外型大型店舗を利用する者が増加し、また交通インフラの利用に便利な郊外に移り住んでしまう傾向もみられ、結果として中心市街地の高齢化率は市全体と比較しても高くなっています。また、商店街の店主も高齢化が進みシャッター通り化も懸念されており、本市の核として当該地域の再生を図り、都市としてのにぎわいを取り戻す必要があると考えています。以上から、商店街に若者が集まり、にぎわいを創出できるようなアイデアを募集します。





商店街が寂しい？勉強する場所がない？なら私たちが作ればいい！

商店街につくる、勉強スペース

コンセプトは【交流】！

高校生ボランティア + 一箱本棚図書館 = 商店街を活性化！

新潟県三条市の中心市街地にあるはずなのにシャッターが閉まっている店が多く、どこか寂しげな雰囲気がある三条中央商店街（以下：商店街）。通学途中の高校生の姿はあれど、商店街の名前すら知らない人が多いのが現状だ。それとは対照的に商店街から徒歩数分の場所に位置する図書館等複合型施設「まちやま」は市民や中高生でいつも賑わっている。特にテスト期間は開館前から中高生の長蛇の列ができ、開館5分で満席になるため「他に勉強する場所が欲しい」と思うことが多かった。

商店街の空き店舗を勉強スペースにすれば一石二鳥なのは！？

そこで私たちは有志の高校生ボランティアとともに空き店舗をDIYして勉強スペースを運営することを思いついた。勉強しに行くというきっかけを作ることで、商店街を利用する中高生が増えるのではないかとさらに一箱本棚オーナー制度を導入した民営図書館を併設することで、地域の方々と中高生の交流の場を創ることができるのではないかとこれが高校生の私たちが考える商店街活性化のアイデアである。

勉強スペースの特徴① 本棚オーナーと高校生主体の運営スタイル

本棚オーナーと高校生ボランティアがお店番をする。高校生ボランティアは自習しながら、時には中学生の勉強・進路の相談に乗る。高校生ボランティアは年は近いけれど、学校の友達とは少し違う存在だ。ボランティアをする側のメリットとしては主に3つ。①高校生ボランティア用の席があるため勉強する場所に困らない。②学習支援・清掃・イベント企画・お店番等を丸ごと体験でき、ここでしかない貴重な社会経験を積める。③学年や学校も違うボランティア同士と一緒に活動することで新しい友達ができる。高校生ボランティアはDIYなどの「場づくり」から参加する。それは当事者意識と場への愛着でユーザー層を固め、将来的には三条市でまちづくりやものづくりに関わる人材を増やすという狙いもある。

勉強スペースの特徴② 一箱本棚図書館の導入

みんなの図書館(通称:みんとしょ)と呼ばれる一箱本棚図書館は、本棚オーナーが一箱分の本棚を月額料金2000円で借りて、おすすめの本・絵・雑貨等をレイアウトした自分だけの「一箱」を作り、訪れた人に本を貸し出すという一箱本棚オーナー制度で運営されている。全国各地でこの制度を利用した図書館が広まりを見せており、月に数回読書会などのイベントも開催している。本棚スペースは自己表現の場なので市民交流のきっかけなどに使ってもらいたい。月額料金が施設の

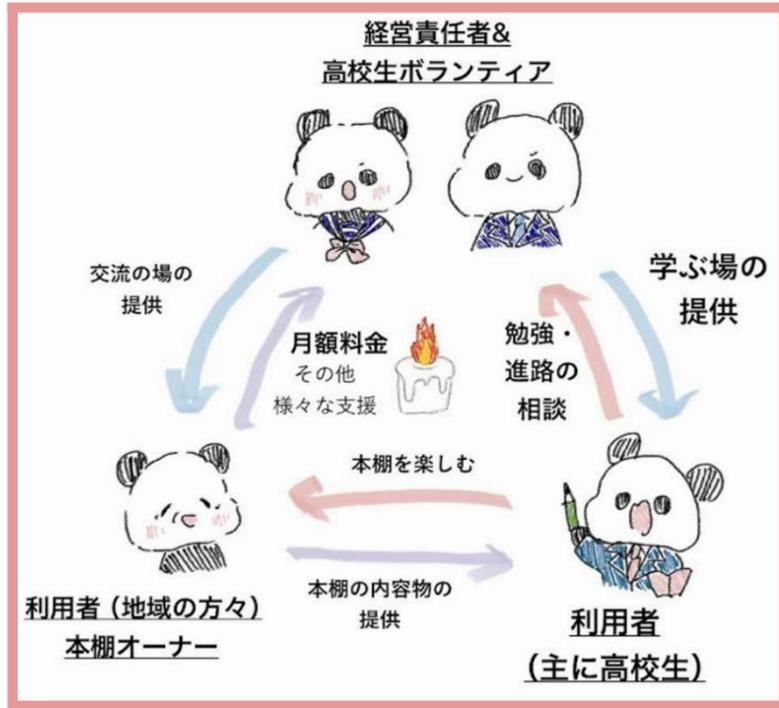
ランニングコストになるため、本棚オーナーになることで中高生の学習も応援することができる。

新潟市中央区にある一箱本棚図書館「ひと八コ Base」

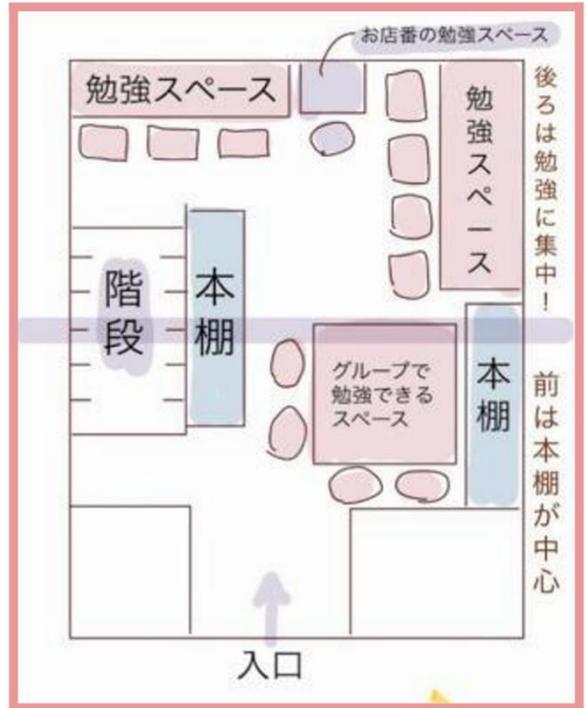




ともしび 三条中央商店街活性化し隊



互いに交流する勉強スペースのシステム



実際に作る勉強・交流スペースレイアウト

この2つを融合することで何が起きる？

「高校生ボランティアの運営」と「一箱本棚図書館」この2つを融合させるためには多くの人が必要となる。しかし、多くの人の手が加わることで全員に、「商店街に賑わいを作る」当事者意識が生まれ、それが商店街自体を活性化させる原動力となる。高校生ボランティアは勉強や進路の話で学びを深めて友達を増やし、高校生ボランティアと本棚オーナーは世代が違うからこそ生まれるアイデアを企画・運営できる。本棚オーナーは一箱本棚を通じて新しい仲間の存在を知る。図のように相互に関わり合い交流する勉強スペースを作ることができるのでこの2つの要素はどちらも欠けてはいけないものだ。

実際に作る勉強・交流スペース

空き店舗の1階部分を利用する。入って手前側は一箱本棚図書館のスペース。中央のテーブルではグループの勉強やイベントに便利。勉強スペースは奥になるにつれ集中度がアップ。お店番の高校生ボランティア専用席も設置する。元婦人服店の名残りであるガラス張りのショーウィンドウを施設の広告スペースとして活用していきたい。

商店街全景



勉強交流スペース予定地全景



勉強交流スペース玄関





ともしび 三条中央商店街活性化し隊



昭和 29 年の三条中央商店街



現在の三条中央商店街

商店街名	店舗数	総土建物数 含む空き地	空店・住居 空き地数	団体加盟店
三条中央商店街	78	119	41	10
一ノ木戸商店街	37	75	38	26

三條市市民部地域経営課 中心市街地活性化推進係 商店街メインストリート調査

商店街が寂しい…

高校生が通学路として利用する三条中央商店街は近年シャッター街化が懸念されている。およそ 50 年前までは 100 店舗近くが並び、「三条市内一栄えている商店街」とも言われていたが店舗数が減り、現在は営業している店舗数より空き店舗の軒数が上回ってしまった。登下校中に自転車を漕いでいても人が少なく、どこか寂しさを感じる。またこれは後から調べて発覚したことだが、アーケードを老朽化のため取り壊した際に商店街組合が解散したので、実はこの商店街は既に商店街ではなくなっていたのだ。

寂しくなった理由を聞いてみた

不定期で開かれる三条マルシェの際には賑わいがあるのに、なぜ日常に戻ると途端に寂しい印象になってしまうのか三条市役所の職員の方にお聞きしたところ、世の中の車社会化が進んだことと、大型ショッピングセンターが近くにできてしまったこと、さらにお店の老舗化とともに常連客の高齢化が進んだことで新規の客足が遠のいていることが原因として挙げられるのだという。歩いて買い物に来る人向けに作られる商店街は無料駐車場がなくまたほとんどが専門店であるため、一度に多く多様な買い物をしたい人には向かない。

商店街活性化の目的とその必要性

三条一栄えていた商店街の空き店舗をこれ以上増やさずに活性化させることで、三条市の核としての賑わいを取り戻すことがこのプロジェクトの目的である。大型ショッピングモールは「買い物の場」「地域雇用を支えるもの」ではあっても、「地域の顔」「地域のコミュニティの場」とはいえない。地域の中心にある商店街はこの大切な役割を果たす必要がある。

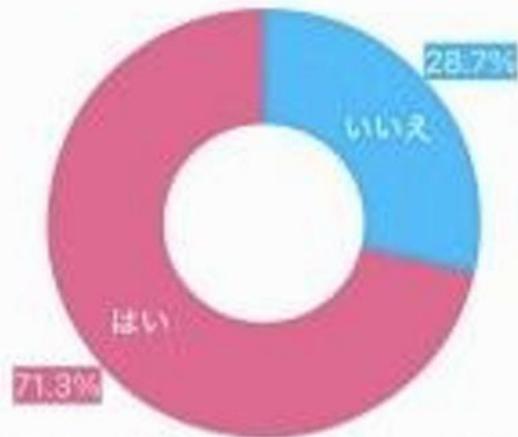
席がない！？ 図書館等複合施設「まちやま」のリアルな声

勉強場所がほしい中高生にとって駅近で静かな図書館等複合施設「まちやま」は特に人気がある。テスト前になると開館前から行列ができ、勉強スペースの席の争奪戦がはじまる。2 階、3 階合わせて 119 席あるが座れないことも。さらにテスト期間中に勉強したいと思っても休館日であることもしばしばあり、不便さを感じることも多い。また三条高校生 108 人にアンケートをとると約 7 割の生徒が不便であると感じている。



2022年 OPEN 三条市のおしゃれな図書館「まちやま」開館前の行列

まちやまが混んでいて不便さを感じるか？



三条高校生108人アンケート結果

先行事例

高校生が学習室を作った例には、鹿児島市喜入町の女子高生が公民館を借りてテスト前の期間に学習室を開放しているというものがある。静かに勉強をするスペースが確保されていて、私たちが求めているものと同じであった。しかし交流という点では活用されていないようであった。

中心市街地の活性化に成功した例には、佐賀県佐賀市中央大通りの商店街のわいわいコンテナがある。これは空き地にそれぞれのテーマに沿ったコンテナを設置し、天候などに左右されない交流スペースとして活用されている地方都市の活性化に貢献している。商店街はコンテナの宣伝を、コンテナは商店街に人の流れを提供することで相互に利益を生み出していた。しかしこちらは複数の企業や NPO 法人が関わる大規模なものである。

交流を大切にする意義

スマホなどを使えばいつでもどこでも連絡を取れる時代に、直接会って交流することを大事にしたいと思った。昔と違い、中高生には商店街に行く習慣がない。そこで勉強スペースと一箱本棚制度のみんとしよを組み合わせ、SNS を介して行われるような趣味の共有やクリエイター同士の交流を商店街の一角で行いたい。SNS では得られない情報や人との思いがけない出会いがそこにある。また静かに勉強することに特化した「まちやま」に対して、わからないところを高校生ボランティアに聞くことができたり相談したりできる。高校生ボランティアは平日の夕方から勉強スペースを管理し、学年・学校も違う高校生と交流できる。また平日の昼間の間は主に図書館を利用する大人同士で交流したり、それぞれの得意分野でイベントを行ったりできる。この勉強スペースをきっかけに、勉強するついでに近くにある文房具屋さんでシャー芯を買うとか、すれ違う顔見知りの地域の人に挨拶を交わすとか、小さい交流もできればいい。そういった交流のともしびを広げていって商店街全体を活性化できればと思う。

本アイデアの独自性

「まちやま」に並んだ実体験により生まれた勉強スペースがほしいという思いが、フィールドワークで沢山の人の関わる中で、人と人をつなげ商店街を活性化させたいという熱に変わっていった。地域と高校生が交流するという目的でみんな図書館を勉強スペースに組み合わせることを考えた。また、DIY やお披露目イベントでさらに人を巻き込んで協力者を増やし、よりよいアイデアを共有して進化し続けるという点がオリジナリティだと考える。



ともしび 三条中央商店街活性し隊

実現までの流れ【実現する主体】

- 新潟県立三条高校 グローカル探究班「ともしび 三条中央商店街活性し隊」
2026年夏で初期メンバー3人の任期満了→以降は後輩へ引き継いでいく予定だ。
- 三条中央商店街の「絵本の店 omamori」の店主まるのさん、隣の一ノ木戸商店街の「TREE」の代表取締役中川さんらにも協力してもらう。
- 三条市役所 市民部 地域経営課 中村さん

必要資源(ヒト)

- 高校生ボランティア
休日や放課後、週に何回かお店番やイベントの企画をできる高校生をInstagramのフォームで募集する。
- 一箱本棚オーナー
本棚の数も考慮し15~30人程度を想定。年齢制限などはなく、月額料金2000円を払えば誰でもなれる。おすすめの本がある人はもちろん、好きな作品について語りたい人や自作の絵や詩を評価をしてもらいたいというクリエイターにもおすす。広報目的で商店街の店や地域企業の利用も歓迎している。
- 図書館館長 兼 経営責任者の大人
平日の昼間は自身の仕事をしながら図書館の館長をし、夕方や休日は高校生ボランティアの施設運営を見守る人が理想である。
- 地域の人や公式Instagramのフォロワー
DIYや自身の店にフライヤーの設置等の広報を手伝ってもらう。公式Instagramでは一箱本棚の紹介や活動の紹介をする。

必要資源(モノ)

- 商店街の空き店舗
7月に空き店舗2軒を内見し、立地の良さ・適当な広さ・家賃の安さなどから元店主の方と相談し、カラオケ店やスーパーの近くで中高生が行きやすい小川洋装店に決定。今回は売り場として使用されていた1階を改装する。オープン後、需要次第では2階を来年度以降勉強スペースとして改装も考えている。
- インテリア(机、椅子、一箱本棚の棚など)・設備(空調、フリーWiFi、コンセントなど)DIY用品(ペンキなど)

必要資源(カネ)

- 新潟県の助成金40万円
- 7月に「新潟県つながる商店街人材育成事業」に応募し、申請が通ったため獲得。DIY費や設備(空調や本棚など)費、大工さんへの謝礼、残りをオープン後数ヶ月のランニングコストへ充てる。
- 一箱本棚オーナーの月額料金
一箱2000円/月×30箱=60000円/月、毎月の光熱費などのランニングコストを賄える程度にはなる。

今までの活動内容

「提案じゃなくて勉強スペースを実際に作って商店街を盛り上げるんだ！」と三条市役所に私たちの熱い思いを電話で伝え、三条市役所の中村さんと商店街のまるのさんの協力があり当プロジェクト発足。

まずは商店街の空き店舗を2軒内見。それから空き家を改装したシェアハウス「ろくのわ」、見附市の高校生のたまり場「MITUKERU」、県内のみんとしよ「ひとハコBase」(新潟市)、燕市「ぶくぶく」(燕市)などでフィールドワークを行った。さらに新潟法律大学の大学生さんと話し合いの中でボランティア主体の運営スタイル



ともしび 三条中央商店街活性化し隊

を考案した。このように人と関わることによって生まれたアイデアを活かして実現に向けた活動をしてきた。9月、もし商店街に勉強スペースが出来たらどのくらい人が集まるのかを調べるため、商店街のシェアスペースを借りて1回100円で生徒に開放するという実験「学習室おためし開放 at メリッサ」を1ヶ月間実施したが、利用者は僅か2人。その理由は広報不足と場所の分かりにくさだった。このことから商店街と私たちの活動を中高生に時間をかけて広めることが最大の課題であると判明したため、10月からは様々な方法で広報に力を入れてきた。

- ① 公式Instagram「ともしび 三条中央商店街活性化し隊」(ID: sanjo_tomoshibi)での発信
活動日誌として最近トレンドの連載ストーリー形式で活動内容を発信している。高校生目線での投稿を心がけており、私たちの勢いが大人にも注目されている。イベントごとにフォローを呼びかけ、12月にフォロー170人を突破した。
- ② 商店街のイベント「掘り出し市」でチラシ配りをして来場者と交流 (新聞取材)
- ③ Open Gate NIIGATA2025 出場
新潟県で行われた学生ビジネスコンテスト。予選の燕三条ラウンドを最優秀賞で突破し本選では優秀賞を受賞！プレゼン以外に審査員や参加者にチラシを配り、Instagramのフォロワーを約30人増やした。
- ④ 三条マルシェ「三条高校グローバル探究と絵本の店 omamori」として出店し、チラシ配りとステージで宣伝



これからの予定

来年からは高校生ボランティアと内装を考え、週末にDIYイベントを開催し、自らの手で勉強スペースが作られていくことを実感しながら2026年2月末にお披露目イベント、4月にはプレオープンをして主に運営面をブラッシュアップしていく空き店舗が正式に決まり初のDIYということで、まずは三条高校生と地域の大人と12月21日に壁を白く塗るというDIYイベント「まちに灯すDIY DAY」を開催する。大人の協力者やボランティアをしたい高校生を探すために魅力的なイベントを考えていきたい。

7月

- ☑ 三条市役所に鬼電
→市・商店街の方と打ち合わせ
- ☑ 空き店舗の内見
- ☑ つながる商店街人材育成事業
に応募 (無事40万円獲得！)
- ☑ 三条高校生にアンケート
- ☑ るくのわ 訪問
- ☑ 新潟法律大学生とアイデア出し

8月

- ☑ 協力者の募集
(イベント・新聞取材・ビラ配り)
- ☑ DIYやぶくぶくについてインタビュー
- ☑ 公式インスタ開設
- ☑ 三条高校オープンスクールで発表
- ☑ ひとハコBase 訪問
- ☑ doみつけ 訪問
- ☑ オープンゲート燕三条最優秀賞

9月～11月前半

- ☑ 学習室おためし開放 atメリッサ
- ☑ 三条マルシェでチラシ配布・ステージ出場
- ☑ オープンゲート新潟 優秀賞
- ☑ 物件の決定

11月後半～3月

- ☐ ボランティア募集
- ☐ 改装計画
- ☐ 実際にDIY
- ☐ お披露目イベント

4月～

- ☐ 春休みプレオープン！
- ☐ プレオープンの反省で更にブラッシュアップ
- ☐ 後輩に引き継ぎ

ともしびインスタ